

飯田市長 佐藤 健 様

信州大学新学部の誘致に関する緊急要望書

南信州地域には4年制の大学がないために、高等教育の充実が長年にわたる課題となっており、これまで様々な検討が行われてきました。こうした中、昨年10月1日、国立大学法人信州大学の中村新学長が就任に当たり、「新しい学問領域に挑戦し、これからの時代を担うデジタル人材を育成する新学部の創設を検討する」と言及されたことを受け、飯田市長は、いち早く当地域への新学部誘致に取り組むことを表明しました。

当地域における多くの若者は、高校卒業後の進学のために一旦は地元を離れますが、その後の「地域内回帰・定着率」は4割程度に留まっており、依然として、人口減少と人材確保が大きな地域課題となっています。

このたびの信州大学新学部設置は、長年の悲願であった当市にとって、まさに千載一遇のチャンスであり、南信州地域への新学部設置に向けた誘致活動を、市民をはじめ、南信州地域が一致団結して行っていく必要があります。

新学部の設置は、若者が地元の大学に進学できるだけでなく、都市部からの学生による雇用創出や学卒者の地元定着率の向上、さらには、大学との協働による教育・研究活動や教職員・学生との接点から生まれる社会的・経済的効果が期待でき、学校を核とした地域の活性化につながります。また、地域産業の振興を担い、社会的な課題解決に貢献できる人材を輩出するなど、地域でグローバルな視点を持った人材が活躍することが期待されます。

リニア中央新幹線の開業や三遠南信自動車道の開通を踏まえ、新たな高速交通網の結節点となる当地域に、今後の時代を担うデジタル人材の育成の拠点が設置されることは、リニア時代を見据えたまちづくりや地域産業を担う高度な人材育成にも寄与し、大きな意味を持つものと考えます。

飯田市議会は、上記のことから、信州大学新学部の南信州地域への誘致実現のため、主体的に行動することを確認するとともに、信州大学新学部誘致推進協議会の会長である飯田市長に対し、この取組の先頭に立って誘致の実現に向けて早急に取り組まれることを強く要望いたします。

令和4年2月21日

飯田市議会
議長 井坪 隆